

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和3年3月29日※1
(前公表年月日:令和 年 月 日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
大阪電子専門学校	昭和51年4月1日	木村 誠	〒543-0043 大阪府大阪市天王寺区勝山4-5-6 (電話) 06-6779-8484																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人木村学園	昭和40年4月1日	木村 誠	〒543-0043 大阪府大阪市天王寺区勝山4-5-6 (電話) 06-6779-8484																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	電子工学科	平成6年度文部科学省 認定	—																						
学科の目的	教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置し、電子工学および無線工学、音響工学および特殊無線技術に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また、業界関係者の助言を受け入れつつ、電子工学エンジニアとして電子回路を製作する場面で必要とされる知識を習得し、技術者として仕事に対する心構えや倫理観を養い、当校の校訓である「人技両立」を成し遂げる技術者の養成を行う。																									
認定年月日	令和3年3月25日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	1802	1581	68	833	102	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
160人	19	1	7	16	21																					
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～1月7日 ■3学期:1月8日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期テストの点数をもとに基準ごとに優・良・可・不可にて判定。不可の場合は、再試を行う。																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月7日 ■春季:3月2日～4月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	すべての座学にて不可のないこと、出席率が70%以上あること。実習・実験に関しては、欠席した回分の補講をすべて受講していること。																						
学修支援等	■個別相談・指導等の対応 年一回の個別面談、及び保護者を交えた三者面談の時期を設定し実施している。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 レクリエーション活動(年度により異なる)、スポーツ大会 学期修了時ごとのパーティー、卒業記念パーティー ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 技術電子機、久米電気機、日信電子サービス機、フライザ機、サンエス工業機、泉陽興行機、機電電子工業など ■就職指導内容 個別面談にて就職希望の方向性などをヒアリングし、会社の紹介を実施している。また、書類の書き方や面接試験対策、模擬筆記試験の実施などを行っている。 ■卒業業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 100 % ■卒業業者に占める就職者の割合 : 90.9 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第二級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>工事担任者DD3</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	第二級陸上特殊無線技士	①	11人	11人	工事担任者DD3	③	11人	1人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
第二級陸上特殊無線技士	①	11人	11人																							
工事担任者DD3	③	11人	1人																							
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成31年4月1日時点において、在学者19名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者17名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 本人、及び保護者との面談		■中退率 11%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料減免制度: 有 AO入試者減額制度、高校在学時の課外活動継続者に対する減額、OB・OG親族に対する減額、高校在学中の皆勤者に対する減額、一般入学者の早期出願者に対する減額 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	電子コース https://www.kimura.ac.jp/course/electronics/electronics-02/ ロボットコース https://www.kimura.ac.jp/course/electronics/electronics-01/ 家電サービスコース https://www.kimura.ac.jp/course/electronics/electronics-03/ オーディオコース https://www.kimura.ac.jp/course/electronics/electronics-05/ 情報通信コース https://www.kimura.ac.jp/course/electronics/electronics-04/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子工学の技術者として、電子機器の設計・製造などを手掛ける企業や電子回路分野で活躍されている有識者などにより教育課程編成委員会にて授業内容や実習内容についての助言をいただいたり、電子機器にかかわる分野で実務に携わっておられる方に授業で回路製作を指導いただくという形で学校の教育分野の運営に携わっていただき、業界で必要となる知識や技術を学生に修得させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長、教務責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。本委員会は、学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、教務責任者で検討し次年度のカリキュラム編成や校内の教育設備へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月10日現在

名前	所属	任期	種別
大音 和豊	株式会社モノプラス	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
吉田 剛	株式会社ベルチャイルド	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
佐々木 啓	久米電気株式会社	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
秋山 英作	大日電子株式会社	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
長谷川 耕平	国立大学法人神戸大学	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	②
木村 誠	大阪電子専門学校 理事長・学校長	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
上田 良和	大阪電子専門学校 教務担当班長・電気設備科	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年2月27日 10:30～11:30

第2回 令和2年3月30日 9:50～10:42

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員から特に出していたのは、コミュニケーション能力の必要性についてであった。

学内でも、実験や実習などコミュニケーションをとって行う必要のある授業が開講されており、そういった部分でも学校内で教育を進めていくように校内にて担当者と話している。また、積極的にインターンシップに参加し、普段会話しないような人たちとコミュニケーションをとっていけるよう進めていく予定としている。

教育課程編成委員会にて、外部識者より、電波に関する実験や実習はできないかとのご意見をいただいた。

当校の施設上大掛かりな電波関係の実験を入れることは難しいが、回路製作の授業時間にてラジオの製作をカリキュラムとして取り入れている。

また、それ以外にも選択制のコース授業である「ロボット工学実習」でwifiを利用しスマホによってロボットをコントロールする授業をカリキュラムに導入して実施した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界関係者の助言を受け入れつつ、電子工学エンジニアとして電子回路を製作する場面で必要とされる知識を習得し、技術者として仕事に対する心構えや倫理観を養い、当校の校訓である「人技両立」を成し遂げる技術者の養成を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 電子工学科2年の製作実習では、制御技術関連の業務に携わっている講師を招き、マイコン回路の製作からプログラミングまでを学ぶ。
 今までも実習に携わっていただいていた企業の講師より、使用するマイコンボードのオプション機能の制作を後回しにし、プログラムを作るカリキュラムを強化したほうが良いというアドバイスを頂きカリキュラムの内容を修正した。
 評価は課題回路の製作、および完成をもって合格とする。完成の判定については企業の講師にも見ていただいて出来栄えの判断を頂き可否の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
回路製作(2年)	電子回路の製作、およびプログラミングの方法について学ぶ	スリーアップ・テクノロジー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

大阪電子専門学校学校教員研修規定に定められている通り、現在担当している業務または、将来担当する可能性のある業務の職務遂行に必要な知識又は技能を習得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。
 また、企業から受けた助言などをもとに研修受講を計画し教員が受講している。
 平成31年度の研修計画としては、当校の「AI」「ロボット」「IoT」の分野での教育を強化するという方針のもと、技術分野の研修として3月に「AI講習会」を計画した。
 また、指導力向上のための取り組みとして3月に「授業の組み立て」についての研修を計画した。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「AI講習会」(連携企業等:㈱アイライト)
 期間:令和2年3月14日(土) 対象:専任教員
 内容:AIについて、AIの仕組みやAIを授業の準備や構成する際の実際のシチュエーションに置き換えながらの説明。
 AIとプログラム言語Pythonとの関係、AIの発展についての歴史について学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「授業の組み立て」(連携企業等:㈱アイライト)
 期間:令和2年3月14日(土) 対象:専任教員
 内容:効果的な授業を準備する手法や、講師が自分の授業を組み立てる際に行っていることなど実務的な面からの授業準備についての内容を行った。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「AIがもたらす教育の未来」(連携企業等:大阪府内地域連携プラットフォーム事務局)
 期間:令和2年10月2日(金) 対象:専任教員
 内容:教育分野でのAIの活用について、AIの概念、グループワークではAIの活用などについて話し合い学ぶ内容。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員研修会(人権教育研修)」(連携企業等:大阪府専修学校各種学校連合会)
 期間:令和2年7月28日 対象:専任教員
 内容:発達障害等のある生徒が安心して学ぶため、発達障害の学生事例や、最近の病名等の振り分けについての紹介

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当校では、関係企業、有識者などを評価委員として、学校関係者評価委員会を組織する。委員会では当校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況や教育状況、目標達成度、進路の状況などの自己評価結果を報告し、委員よりそれらの内容について評価していただく。評価内容をご検討いただくことで運営について透明性と客観性を高め、今後の運営や教育改善を図ることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の委員会は、当校の上げた電子工学科及び当校の運営に関する評価項目に対して妥当性の評価をしていただいた。
現状では、大きな問題点は見いだせなかったため、是正を求められるような状況は上がらなかった。
引き続き、当校の電子工学科及び学校運営の妥当性に関して、当校外部の委員の皆様へ評価をしていただき、改善を実施していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月10日現在

名前	所属	任期	種別
岩本 浩一	株式会社キンコー	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
高松 光示	中央電設株式会社	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
渡邊 隆行	株式会社セイコー	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
乾 克彦	一般社団法人大阪電業協会	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	有識者
大音 和豊	株式会社モノプラス	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
吉田 剛	株式会社ベルチャイルド	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
佐々木 啓	久米電気株式会社	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
秋山 英作	大日電子株式会社	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員
長谷川 耕平	国立大学法人神戸大学	平成31(令和元)年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.kimura.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和2年7月14日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ウェブサイトへの学校情報にて閲覧できる「項目別の自己評価表」およびウェブサイト学校情報にて閲覧できるその他の資料およびウェブサイト内学科紹介等により掲載している。当校の正しい状況を近隣住民、学生、企業に積極的に情報提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、学校長挨拶、沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育活動
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動、施設
(6) 学生の生活支援	資格サポート、就職サポート、キャンパスライフ
(7) 学生納付金・修学支援	学費について、活用できる学費減免制度、奨学金
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	学校関係者評価、自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.kimura.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程電子工学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		C言語	プログラミングを学ぶ上での基本となるC言語について、講義によりC言語プログラムの基礎を学ぶ。	1 通	85		○			○		○	○	
2		○	大学編入対策 (数学)	さまざまな大学の編入問題を軸に微分・積分・線形代数の問題を解くことができるように解説しながら編入に向けて力を蓄えていく。	1 通	34		○			○		○		
3		○	大学編入対策 (電気磁気)	さまざまな大学の編入問題を軸に微積分・電気磁気の問題を解くことができるように解説しながら編入に向けて力を蓄えていく。	1 通	34		○			○			○	
4	○		日本語	留学生を対象として日本語能力試験の受験対策を行う。 留学生向け、日本人は対象外	1 通	68		○			○			○	
5	○		電気磁気	電気磁気現象を的確に把握し、物理現象の本質にふれ、高度情報社会を支える情報通信機器を構成する電子部品などを作るための基礎を学ぶ。	1 通	68		○			○		○		
6	○		回路実験	実験・実習機器類を取り扱いながら、下記の到達目標事項を達成することをねらいとしている。	1 通	68				○	○		○		
7	○		電気理論	オームの法則、キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理について学び、直流回路の回路計算、電力、熱量を求める。交流回路では実効値、周波数、位相の意味、正弦波交流の表し方、インピーダンス、交流電力について学ぶ。また、理解力に応じて2クラスに分かれ、理解を深める。	1 通	136		○			○		○		
8	○		デジタル回路	2進数・16進数の理解と、論理回路を理解し、て回路設計手法を修得する。また、各種フリップフロップの基本動作を理解して、非同期式カウンタ、同期式カウンタの設計手法を修得する。	1 通	102		○			○		○		
9	○		電気数学	数学の基礎として分数、四則計算、指数計算などについて学習し、電気回路の計算が自在に出来る様基礎学力を身に付ける	1 通	68		○			○		○	○	
10	○		データ通信/ 工事担任者	有線通信工学、工担法規、伝送理論、工事担任者国家資格にむけての法規と技術について学習する。	1 通	68		○			○		○		

11	○		電子回路	ダイオード、トランジスタおよび特殊な半導体素子について構造、特性、規格および基本回路の動作を難しい数式を使わないで解説し、基本的な知識が十分に得られるようにする。	1通	102		○			○								
12	○		回路製作	電子の基本部品である抵抗・コンデンサ・ダイオード・トランジスタを用いて、電子回路の製作を通じて各回路の動作を学ぶ。	1通	68					○	○		○					
13	○		物理	物理学は、自然界で起こる現象を基本的な法則から統一的に理解しようとする科学である。基本的な概念とその代表的な現象を、数学的な記述を用いて理解し、また表現することを学ぶ。ここでは、「運動と力」と「力学」の2分野を対象とする。	1通	68		○				○							○
14	○		通信技術	無線通信の基礎となる電気回路や電子回路をはじめ、無線電話装置（送信装置、受信装置）、多重通信装置、衛星通信装置、電源装置などの装置やアンテナについて、その原理、構成および操作法などを学ぶ。	1通	34		○				○							○
15	○		プログラム実習	プログラミングを学ぶ上での基本となるC言語について、実際のプログラミングを行いC言語プログラムの基礎を学ぶ。	1通	34						○	○						○
16		○	メカトロニクス	メカトロニクスとは何か、特徴と分類などを学ぶ。	2前	34		○				○						○	
17	○		プログラム実習	プログラミングを学ぶ上での基本となるC言語について、実際のプログラミングを行いC言語プログラムの基礎を学ぶ。	2通	34						○	○						○
18	○		応用数学	電気数学を学ぶ上での基本となる一分野である微分・積分の基礎を学ぶ。	2前	34		○				○						○	
19		○	数学Ⅱ	大学理工系学部で通常2年次後期以降に学習する内容の解析学（複素関数論・偏微分方程式・フーリエ解析・ベクトル解析）の基礎を学ぶ。特殊関数には触れない。（受講対象は、電子工学科・情報エンジニア科の大学理工系学部3年次編入入学を希望する学生に限る）	2前	34		○				○						○	
20	○		電気理論	電気に関する基礎知識である電気回路について学ぶ	2前	34		○				○						○	
21	○		理論演習	電界・磁界の特性、相互作用を学ぶ	2通	68					○		○						○
22	○		電子回路	トランジスタや演算増幅器を用いた回路設計の基礎となるアナログ電子回路の理論と実際の設計例を学ぶ	2通	102		○				○							○
23	○		回路製作	マイコン周辺回路の設計、マイコンのプログラム設計、動作検証評価までを行う	2通	68						○	○					○	○

24	○		回路実験	電子回路の基礎を実際の実験を通じて、評価・確認をおこなう。	2通	34					○	○	○					
25	○		アプリケーション実習	書類の作成、データの解析、プレゼンの実施が出来る様、Word, Excel, PowerPointの基本操作を学ぶ	2通	51					○	○					○	
26	○		マイコンハード	マイコン（マイクロコンピュータ）の仕組みについてシステムの構造やデータの流れなどを理解する。	2通	68				○		○	○					
27		○	大学編入対策（数学）	各編入希望先の大学も絞ることができているので、合格レベルに達することができるように過去問題を中心にどんどん問題を解いていく。	2前	17				○		○	○					
28		○	大学編入対策（電気磁気）	さまざまな大学の編入問題を軸に微積分・電気磁気の問題を解くことができるように解説しながら編入に向けて力を蓄えていく。	2前	17				○		○					○	
29	○		日本語	留学生を対象として日本語能力試験の受験対策を行う	2通	68				○		○					○	
30		○	家電サービス実習	家電修理技術者として、分解・組み立てなど基本的な技能を身につけ、様々なトラブルに対応できるエンジニアをめざす。	2後	34						○	○				○	
31		○	ネットワーク実習	ネットワーク構築・運用時に必要となる知識・技術を、仮想サーバ構築とルータ操作を通して学ぶ。	2後	34						○	○	○				
32		○	ロボット工学実習	オートメーション等で活躍するロボットの仕組みや動作について基礎を学び、実際に動作させる	2通	102						○	○	○				
33		○	マイコン・FPGA実習	ハードウェア記述言語の1つであるVerilogを習得し、7セグメント表示器、3分間タイマの設計、更に希望によりLCDコントローラ、VGAコントローラの製作、またはArduinoを用いて温度センサ、距離センサ、加速度センサ等の動作確認、モーターの制御を行う。	2後	68						○	○	○				
34		○	ヒアリング実習	トランジスタや演算増幅器を用いた回路設計の基礎となるアナログ電子回路の理論と実際の設計例を学ぶ。	2通	68						○	○	○				
35		○	音響システム実習	音響に関する機材の種類、使い方、特性について学び、実際の現場での音響システムの構築手法を学ぶ。	2通	68						○	○					○
36		○	インターフェースⅡ	マイコンを制御センターとして周辺の回路を駆動させる、あるいは、周辺のセンサーから情報を得るためのマイコンのI/Oポート周辺回路について学ぶ。	2後	34				○		○	○					
37		○	ネットワーク技術実習	ネットワークの仕組みについて学び、自分でネットワークが構築できるようになるための基礎技術を習得する。	2通	34						○	○	○				

38	○	インターフェース I	マイコンを制御センターとして周辺の回路を駆動させる、あるいは、周辺のセンサーから情報を得るためのマイコンのI/Oポート周辺回路について学ぶ。	2前	34	○	○	○										
39	○	音響工学	子回路の基礎（抵抗、コンデンサ、フィルターの働き）、インピーダンス、ケーブル、アンプ、スピーカーなどについて学習し、基本的な音についての知識を身に付ける。	2通	68	○	○	○										
40	○	家電サービス座学	家電製品エンジニアの資格取得にもとづく基礎学理と修理技術を学ぶ。	2通	68	○	○	○										
41	○	マルチメディア	パソコンやスマホによる情報の流れを理解し、安全快適にネットを利用するための基礎知識について学習する	2前	34	○	○	○										
42	○	AI	AIについて知識的な面と、実際にコンピュータ上で動作させてみて総合的に学ぶ	2後	34	○	○	○										
43	○	EUC	システム開発から運用に至るまでの一連の流れと、プログラムの構造を理解する。特にプログラムの構造を図によって表現する方法を習得するとともに、各種アルゴリズムへの理解を深める。	2後	34	○	○	○	○									
44	○	インターフェース実習	メーカーが製品を発売するまでの工程に従って、製品の企画・開発・設計・製作・評価の一連の作業を行う。製品開発のステップを学習する。	2通	136		○	○	○									
45	○	オーディオ技術実習	オーディオアンプの製作及び特性の測定を行う。	2後	34		○	○	○									
合計				45科目	2584単位時間													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>全科目不可がないこと。 実習の判定がすべて合格であること。 出席率が既定の基準を満たしていること。 なお、回路製作（2年次）は必修科目である。</p> <p>電子工学科2年次に5種類のコースに分かれて授業科目を選択する。 各コースごとの選択授業は408時間以上受講する必要がある。 選択授業のうち、各コースごとの必修は以下のとおりである。 * 電子コース（コース必修：38、44） * 家電サービスコース（コース必修：30、40） * 情報通信コース（コース必修：31、41、43） * オーディオコース（コース必修：39、45） * ロボットコース（コース必修：16、32） コース必修の他、16、19、30～45の授業科目より受講科目を選択して受講する。</p>		1学年の学期区分	3期
		1学期の授業期間	11週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。